

今日からはじめる！

富士宮市

地域づくり  
読本



# 1 地域づくりの基本的な考え方

## 1-1 地域が主体となった地域づくりの必要性

富士宮市では令和2年3月に都市計画マスタープランを改定し、幅広い世代に選ばれ、住み続けられる都市づくりを目指しています。

一方で、都市計画マスタープラン改定時には、市民アンケートやワークショップを通して人口減少や地域の活力低下、生活利便性や公共交通、空き家・空き地の発生、コミュニティの維持等、多岐にわたる地域課題があるとわかりました。





## 【地域づくり読本 目次】

1. 地域づくりの基本的な考え方	・・・1
1-1 地域が主体となった地域づくりの必要性	・・・1
1-2 地域づくりの進め方	・・・3
1-3 地域づくりのテーマ	・・・5
1-4 課題解決の視点	・・・7
2 地域づくりの実践	・・・8
2-1 杉田3・4区における「コミュニティカーシェアリング」の実践	・・・8
2-2 白糸地区における空き家対策に向けた検討	・・・12
3 地域づくりの参考例	・・・16
3-1 空き家を活用し、移住家族を受け入れ(富士宮市猪之頭地区)	・・・17
3-2 地区特性にあったビジョン策定(京都市大原小出石町地区)	・・・19
3-3 低未利用地を活用した多目的広場整備(日野市杉の子ひろば)	・・・20
3-4 地域主体でよろずや商店を開業(宮城県丸森町大張地区)	・・・21
4 相談窓口・支援制度	・・・22

近年では、このような地域課題に対して、行政のサポートを受けながら地域が主体となって解決に取り組む例も全国的に増えてきました。

富士宮市においても、地域(地域の代表者、団体、住民など)が主体となり、必要に応じて行政や専門家などの支援を受けながら、課題解決に向けた取り組みを活性化するためのヒントとして「地域づくり読本」を作成しました。



## 1-2 地域づくりの進め方

地域における課題はひとりやふたりで解決できることは限られています。そのため、住民同士の対話を大切にし、仲間を増やししながら進めていくことが重要です。また、具体的なアクションやイベントの実施、目に見える成果の共有を図ることで、周囲の住民の関心を高め、新たな参加者や協力者が出てくるのが期待されます。

また、地域だけで取組みを進めることが難しい場合は、行政と連携したり、取組みの分野に詳しい専門家や民間団体のサポートを受けることも重要です。まずはお気軽に市役所にご相談ください。



参加者同士の対話による  
取組みアイデアの抽出、  
取組み計画の整理



実際に地域住民同士で  
アクションやイベントを実施

必要に応じて取組み支援

### 行政

- ・会議の運営や取組実施に関する支援
- ・関係機関等との調整支援
- ・取組実施に関する専門家の派遣



### 専門家

- ・実験的な取組実施のコーディネート
- ・地域のニーズ調査の実施支援
- ・先進事例などの情報提供
- ・今後の計画やルールの検討支援

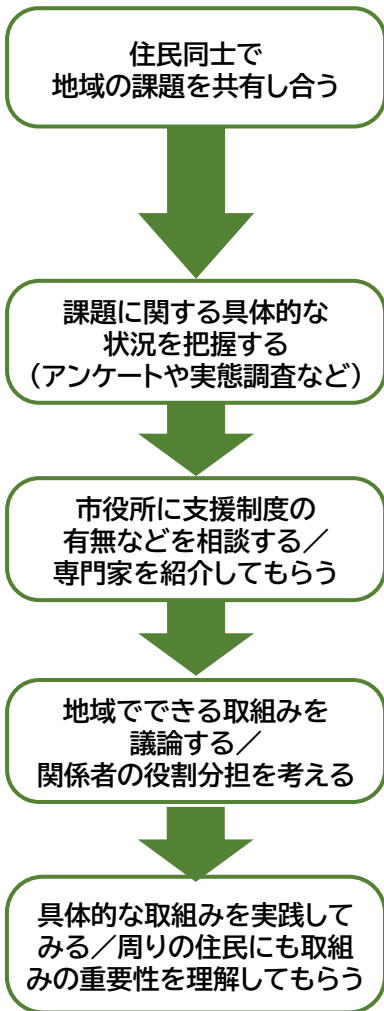




富士宮市では令和4年度に、市内2地区(杉田3・4区、白糸地区)で地域主体で課題解決に取り組む地域づくりモデル事業を実施しました。

モデル事業を通して、住民や関係者同士が地域課題を「自分ごと」として捉え、役割を分担して自分たちでできることから進めていくことが、取組みを軌道に乗せるポイントとなることがわかりました。

みなさんの地域でも、地域の力で取組みを始める上で、次の進め方の例を参考にして下さい。



日常生活で家族以外の人から受けられる支援があるなら、どのようなことを利用したいですか？(複数回答可)

病院への送迎や付き添い	39.2%
買い物への送迎や付き添い	24.8%
体調不良時の手助け	28.0%
食事の支援	23.6%
庭の手入れ	20.0%
整理整頓や掃除	14.4%
洗濯や布団干し	8.8%
ない	24.8%
その他	4.8%
無回答	4.8%

病院への送迎・付き添いや買い物への送迎や付き添い、体調不良時の手助けのニーズが高い



## 1-3 地域づくりのテーマ

地域におけるまちづくりの課題を6つのテーマに類型化しました。人口減少や地域の活力低下、生活利便性や公共交通、空き家・空き地の発生、コミュニティの維持等、多岐にわたる地域課題があることを把握しました。

### 土地利用



土地の管理・活用や空き家の発生など

【取組みの例】

農地の活用

山林の活用

空き地・空き家の活用

### 地域交通



居住地と様々な場所をつなぐ移動手段の不足など

【取組みの例】

市街地をつなぐ  
交通手段の確保

地区内の  
移動手段の確保

### 地域資源



歴史・自然・景観などの保全や継承が必要など

【取組みの例】

地域資源の保全

地域産業の創出

富士山眺望の確保

### 生活利便性



地域に店舗や住民の交流の場がなく不便など

【取組みの例】

日常的な買い物  
場所の確保

地域の交流拠点  
の整備・更新

### コミュニティ



地域の若者が減っている、交流の機会が減っているなど

【取組みの例】

多世代交流

住民の居場所

若者世代の定住促進

### 安全性



土砂崩れなどの危険な箇所がある、夜間の暗がりが多いなど

【取組みの例】

防災安全性の  
確保

夜間等の  
防犯対策

6つのテーマに関連する課題は、特に市街化から外側において顕著となっています。富士宮市は、市街地の外側でも緑豊かな自然環境と共存した集落が多くあり、集落地域の生活環境の持続や魅力の向上のための取組みが重要です。



公園・レクリエーション施設



豊かな自然資源、  
世界遺産の構成資産



田園居住エリア



農村風景



朝霧高原の広大な農地



点在する歴史資源



南側に広がる市街地



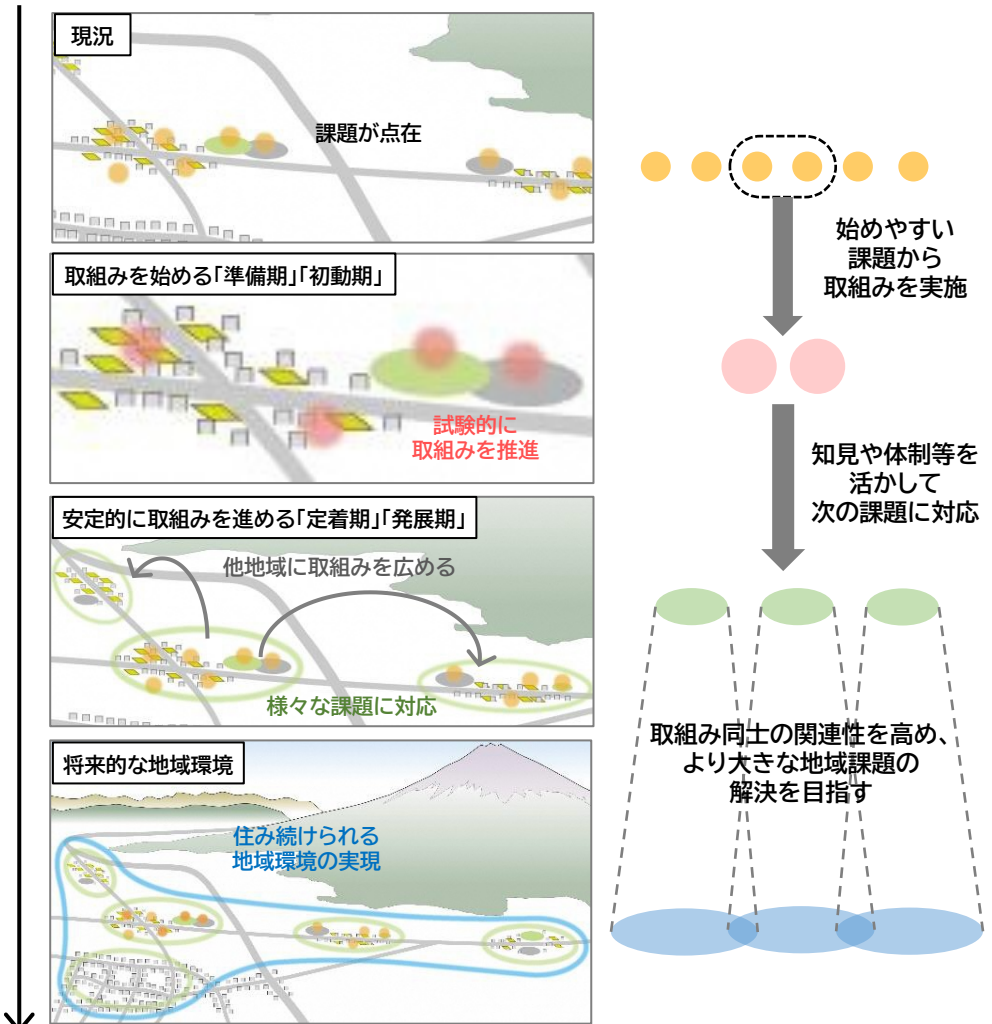
## 1-4 課題解決の視点

地域ごとに様々なまちづくりの課題を抱えています。これらを全て短期間で解決することはできません。

そのため、まずは比較的ハードルが低い取組みからトライアル的に始めていくことをお勧めします。小さな成果を積み上げることで、取組みの参加者が増えたり、知識や経験が蓄積されることでより幅広い課題に取り組みやすくなります。

また、似たような課題を持つ地域同士で一緒に取組みを進めたり、地域間の交流・連携を図ることで、取組みの発展や持続性の向上につなげることができます。

### 時間軸



## 2 地域づくりの実践

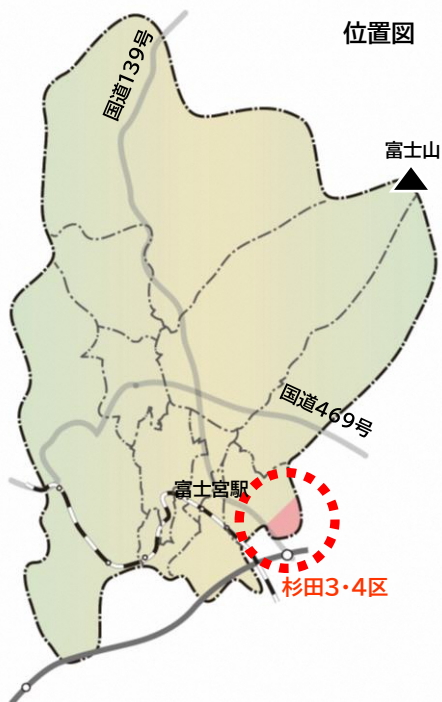
### 2-1 杉田3・4区における「コミュニティカーシェアリング」の実践

#### ●地域の課題と取組みの背景

杉田3・4区では、高齢化で移動手段に不便が生じ、外出機会の低下に繋がっていることが課題でした。

アンケート※によると、「近所との交流に積極的に関わりたい」ことや「介護が必要な場合にも長く自宅で生活をしたい」こと、「日常生活での病院や買い物への送迎・付き添い支援があれば利用したい」ことが分かりました。

こうした背景から、住民が支え合いの中で移動手段を確保しながら、見守りやコミュニティづくりを進め、健康に暮らし続けられることを目指し、『コミュニティカーシェアリング』の仕組みを試験的に導入し、本格運行に向けて準備を進めています。



位置図

※2017年に富士根南地区社会福祉協議会が実施

#### コミュニティ・カーシェアリングって？

会員による任意団体が車の共同利用を通して、様々な活動を行い、自ら運営することで支え合う地域づくりを目指す取り組みです。東日本大震災の後、(一社)日本カーシェアリング協会により、石巻市の仮設住宅で始まったこの活動が、現在は移動に課題のある様々な地域に導入されるようになり、全国に広がっています。



POINT

課題を感じているのは誰か？  
具体的にニーズを把握しよう！

準備期

① 課題意識の共有

- ・区長、副区長、福祉委員[コアメンバー]が集まり、地域の課題意識を共有する場を設け、特に独居高齢者世帯の移動支援や見守りについて課題があがりました
- ・バス停までの高低差があり利用が困難であること、立地上富士市が生活圏だが、宮タクは富士市側へは運行できない等、既存の公共交通ではカバーしきれない実態を共有しました

POINT

試行→ふりかえり→工夫して再試行  
のサイクルでステップアップしよう！

④ テスト運行の検討と実施

5月

6月

第1回協議会

第2回協議会

10月～3月

テスト運行

- ・利用ニーズ調査の共有
- ・カーシェアリングの勉強会
- ・テスト運行のルールづくり

- ・独居高齢者10名から開始し、徐々に対象を拡大
- ・利用促進のため、買い物ツアアの企画を行い、外出機会の創出やコミュニティ形成に関する取組みにも挑戦

地域説明会

7月・10月

- ・活動の周知やドライバー・利用者の中長期的な募集のため、地域に向けた説明会を実施

POINT

利用者の声をきいてみよう！

初動期

⑤ 本運行に向けた準備と実践

2月

第3回協議会

- ・テスト運行の利用実績やアンケート結果、その他の気づきを共有し、本運行に向けた課題を整理し、対応
- ・これまでの活動を振り返り、活動の理想的な姿と実現に向けたロードマップづくり

4月頃を予定

本運行の開始

- ・組織の設立して本運行を開始
- ・定期的にロードマップを見直して、活動をステップアップ！

定着期



## POINT

テーマに関する組織や専門家と一緒に検討する体制をつくろう！

### ② ニーズの把握調査の実施

- ・移動支援の利用ニーズ調査を実施、ボランティアドライバーの協力者の募集(対象:福祉協力員に声かけ)
- ・課題の深刻度が高い高齢独居者の10名を対象とした取組みを想定

【対象】  
高齢独居者、高齢者のみ世帯等  
【調査事項】  
利用意向／どんな仕組みが良いか／どのくらい支払えるか／行先の希望

### ③ 協議体の組織

- ・コアメンバーに行政や社会福祉協議会、専門家が加わり、具体的に取組みを進める場を構築

## POINT

まずは小さく始めてみよう！

12月頃

毎月1回

利用者アンケートや振り返り



地域報告会

- ・定期的にコアメンバーが集まり、利用状況やルール変更の必要性などについて話し合い
- ・利用者へのアンケート調査で、ルールの見直しや効果検証に活用

#### 【調査事項】

利用目的や行先／外出頻度の変化／満足度(価格・コミュニケーション等)／継続意向



協議会の様子



テスト運行の開始！

- 移動支援×見守り×コミュニティ形成を軸として、メンバーのやりたい活動、地域に必要な活動を幅広く展開していきます
- 利用者やドライバーも運営に参加し、会の運営自体がコミュニティの活動であり居場所となる体制づくりを目指します
- 安定した利用者数や寄付等により、自助・共助を基本とした自立的、持続的な運営を目指します

発 展 期

## ●関係者の声

杉田4区 副区長

### 実践者の想い 櫻井 鉄治 さん



#### 取組みを始めたきっかけや当時の課題意識は何でしたか？

きっかけは富士宮市のモデル事業でした。応募について区の役員会で話し合った際に、民生委員から高齢者の移動や見守りに関する課題が共有されました。本地区は高齢化が進んでおり、バス停までは遠く坂道が多い、宮バスは運行されておらず、富士市への移動が多いものの宮タクは運行範囲外という状況があり、地域独自の移動手段を確保しながら見守り活動ができないかと考えました。

#### 手探りで取組みを始めて、当初どのようなことに苦労されましたか？

一部の役員や地域住民から「何かあったらどうするのか？」と不安視する声もあり、理解を得ることに課題を感じていました。そのためにも、テスト運行の成果を役員や住民に示すことが肝だったため、専門家とも相談をして、当初予定していたテスト運行期間を延長して頂き、何とかこの段階までこぎつけることができました。

#### テスト運行をしてみて、地域の反応やコアメンバーの手ごたえはどうでしたか？

利用者の反応が良かったことが何よりの励みでした。本来目的としていた見守りにも大きく役立っており、移動を通して高齢者の状況が把握できています。

#### 今後の取組みの展望や他地域へのメッセージがあれば教えてください。

一部の住民による「移動支援を通じた見守り活動」を区全体の活動として「魅力あるまちづくり」へ繋げていきたいです。活動を継続していくためにも、「持続的な体制づくり」も進めていかなければなりません。

他地区へのメッセージとしては、思っているだけでは始まらないので、まずは動いてみるのが大切だということを伝えたいと思います。

一般社団法人 日本カーシェアリング協会 代表理事

### サポーターの声 吉澤 武彦 さん



杉田地区の活動は、素晴らしいと感じることがいくつもありました。

まずはこの活動を単なる移動支援ではなく「まちづくり」と据えたことです。交流や関係づくり、見守り体制を作ることこそが大切であると認識されています。

2つ目は、デマンドタクシーとの連携です。この活動の会員は宮タクの会員にもなってもらい利用を促しました。それによって、移動支援に関してはこの活動が宮タク等の公共交通の補足とする位置付けが明確となりました。

最後は、計画性です。富士宮市初の試みのため、設立後すぐに自治体から補助を得ることは難しいと認識し、民間の助成金等を活用し実績を作ったうえでの連携を目指されました。非常に現実的な歩み方をされています。

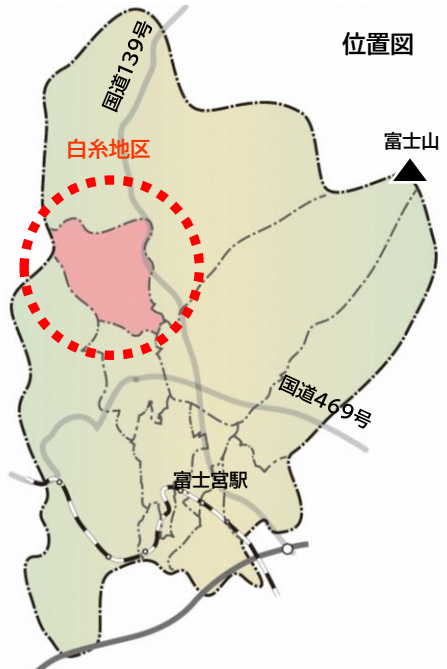
この調子で活動をエンジョイしながら支え合いの輪を広げていただければ嬉しいです。

## 2-2 白糸地区における空き家対策に向けた検討

### ●地域の課題と取組みの背景

白糸地区は、市内でも高齢化や人口減少が顕著な集落でした。平成28年に実施した空き家調査では、白糸地区の空き家率は市内でも上位となっていました。

集落の拠点づくりのためには、空き地・空き家の活用や移住・定住の促進が必要であることから、地域と行政が連携して空き家の実態把握調査や、管理・活用の課題について議論するワークショップを実施しました。

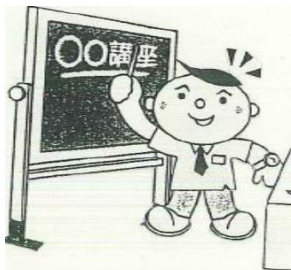


### 富士宮市における空き家対策の主な取組み

富士宮市では、空家等対策の推進に関する特別措置法に基づき、富士宮市空家等対策計画を策定して空き家対策を推進しています。

#### 出前講座

空き家の発生抑制、空き家問題への意識醸成、相続に関する知識取得を目的とした講座を実施しています。



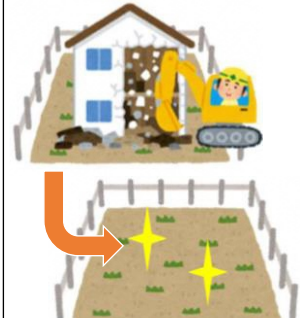
#### 相談会

空き家に関する様々な相談に対して、司法書士、税理士、建築士、宅地建物取引士等の専門家がお答えします。



#### その他

空き家の除去工事に対する補助金制度や、譲渡所得時の特別控除があります。





## ●課題解決の取組み

準備期

### ①地区内の空き家の実態把握

自治会と連携し、各区の空き家の分布調査を実施

平成  
28年

23件

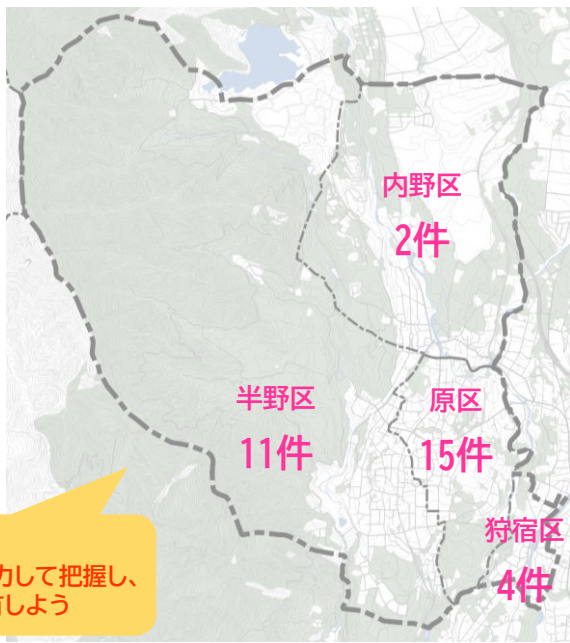


令和  
4年

32件

POINT

実態を地域で協力して把握し、課題を共有しよう



### ③空き家対策に向けた議論(ワークショップによる意見交換)

町内会長を対象に、実態や課題、地域でできる取組みについて意見交換を行いました。

8月

#### 第1回ワークショップ

- 市内・他都市の取組み事例紹介
- 地域の実態や課題の共有
- 地域でできる取組みのアイデア



#### 主な意見

##### 【空き家の管理について】

- ・庭の雑草が課題。地域での草刈りは大変
- ・防犯、防災、火災の危険性がある
- ・空き家の原因として生活環境の不便さがある

##### 【地域でできる取り組み】

- ・所有者の意向把握が最重要
- ・賃貸で借りやすい仕組みづくりが必要
- ・若者世代の受け入れの場、地域資源の発信の場、住民や来訪者が集まる場として魅力的な空間活用ができるのではないかと

## ②課題の共有・

### 解決に向けた取組み事例把握

ワークショップ等では、空き家を減らす取組みだけでなく、他の市町村の様々な取組み事例等を学びました。

#### 地域でできる取組み事例

- ・空き家のお掃除イベント
- ・空き家のお試し活用実験
- ・管理や手入れ面での所有者サポート

#### POINT

似たような課題に対して、  
他地域で取組まれている  
事例を知ろう



空き家のお掃除イベントの例



地域団体による空き家の草取り支援の例

#### POINT

将来的にどのような地域であってほしいかや  
解決に向けた取組みの始め方を意見交換しよう

12月

### 第2回ワークショップ

- 専門家による実践事例の取組み
- 所有者意向把握の必要性
- 取組みの推進体制の必要性



#### 主な意見

##### 【所有者意向把握について】

- ・空き家マップがあるが、所有者情報が少しでもあれば話が進むのではないかと

##### 【推進体制について】

- ・空き家対策の主体は誰か／どこが始めるのかを整理することが必要
- ・他地域の真似ではなく、白糸地区に合った進め方を考えることが大切。
- ・蓄積をいかに引き継いでいくのかが重要であり、町内会長や班長のみで取組みを進めるのは難しい。他の地域がどのようにやっているかを参考にしたい

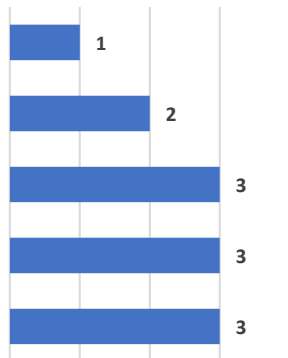
#### ④取組みの開始・定着に向けた意向調査

ワークショップ参加者を対象に、空き家への課題意識や今後の取組みの進め方に関する意向調査(回答者10名)を実施しました。

##### 空き家問題に対する意識の変化

- ・ワークショップ参加や空き家調査を通じて、空き家に対する課題意識が強まった人が多く見られています。

1. 以前から白糸地区内の空き家の発生状況に課題意識を持っていた
2. 空き家調査を通じて、白糸地区内の空き家の発生状況への課題意識が強まった
3. ワークショップでの意見交換等を通じて、空き家の管理の難しさに課題意識が強まった
4. ワークショップで他都市の取り組み事例を知ることで、空き家活用に対する関心が高まった
5. 空き家に対する関心や課題意識の変化はない



##### 空き家の発生で特に課題と思うこと

- ・ワークショップと共通して管理面の課題や、周囲の安全性への影響に対する危機意識が高くなっています。

##### 上位に挙げられた課題

- 樹木・雑草の繁茂
- 腐朽・破損の進行
- 地震等による損壊・倒壊
- 不審者の侵入や放火

##### 今後の取組みに向けた主な意見

- ・まずは取組み団体の設立が重要。自治活動の中で行うのは難しいが、率先して取組みを行えるように、市の連携・支援が必要。
- ・コミュニティの若い力や、児童数が増えることが地域の希望になる。ワークショップを通して課題意識を改めて認識した。
- ・白糸の景観等をアピールし、移住者を惹きつけられると良い。職探し等を地域と行政が一体でサポートすることも大事。



### 3 地域づくりの参考例

この章では、地域づくりの参考となるよう、図や写真を用いて事例をご紹介します。

事例は、富士宮市猪之頭地区のほか、富士宮市外の3地区について、地域づくりのテーマ、実施主体、取り組みの背景、検討のプロセスなどで構成しています。

杉田地区、白糸地区の地域づくりの取り組みと合わせて、是非、ご覧ください。

表 参考例一覧

地域づくりのテーマ	事業の概要	地区名称	紹介頁
土地利用 コミュニティ	・地域コミュニティの活性化を目指すため、地区内に点在する空き家や空き地を活用し、移住者を受け入れている	富士宮市 猪之頭地区	17頁
土地利用 地域資源 コミュニティ	・地域活力の低下や後継者不足、地域コミュニティの維持が困難になってきていることから、地区外から居住者を受け入れ、活性化を図る	京都市 大原小出石町地区	19頁
生活利便性 コミュニティ	・空き家の活用へ関心がある所有者等に対し、活用希望者を紹介する「空き家活用マッチング」を通じて、低未利用地を活用した多目的広場の整備が進められている。	日野市 杉の子ひろば	20頁
土地利用 生活利便性 コミュニティ	・JA購買部の撤退と地区の唯一の小売店の廃業が続き、地域住民が買物不便に直面したため、地域主体でよろずや商店を開業した。	宮城県 丸森町大張地区	21頁

## 3-1 空き家を活用し、移住家族を受け入れ(富士宮市猪之頭地区)

### ●実施主体

猪之頭地区活性化推進委員会

【地域づくりのテーマ】



### ●取り組みの背景

猪之頭地区は、児童・生徒の減少が顕著になっていたことから、地域コミュニティの活性化を目指すため、地区内に点在する空き家や空き地を活用し、移住者を受け入れることとしました。

### ●委員会の活動概要

2016年1月、地元住民の有志により設立されました。

委員会メンバーは、ご近所の空き家・空き地を見つけ、所有者に売却や賃貸の意向を確認しています。はじめは、他人に貸すことを躊躇される所有者が多かったのですが、実例が増えることで、協力してくれる方が増えてきました。

また、移住希望者は、地域コミュニティにも興味を持つことが多いため、住民と触れ合う機会をもっています。



移住家族の迎え入れのため、空き家の清掃をする委員会

猪之頭地区活性化に向けて意見交換する住民と市職員ら  
〓 富士宮市の井之頭区民館



松委員長は「学校は地

猪之頭区によると、井之頭小も約60年前のピーク時に児童数250人を誇ったが、現在は47人にとどまる。植

市未来企画課による「猪之頭地区活性化推進委員会」（委員長・植松政臣区長）が19日発足した。インターネットを活用して地域の魅力を発信し、子育て世代の移住定住を推進する。

域コミュニティの維持に欠かせない。少子化対策を喫緊かつ中長期的な課題として取り組む」と話す。

活性化委の男性住民7人と市職員は19日夜の初会合で、市が4月に開設する移住定住ポータルサイトを使い、自然環境に恵まれた子育て環境や空き家情報などを発信することを決めた。「若者や女性の考えを取り入れるべき」との意見があり、今後、活性化委のメンバー構成も検討する。

## 富士宮・猪之頭

# 「地域維持」へ活性化委

## ネット活用 移住定住を推進



後藤さん  
平成31年1月神奈川県横浜市より移住

### 移住のきっかけ

転職をきっかけに富士宮市に移住することになり、妻も私もアウトドアが好きなことと自然豊かな所で子育てができればという想い、また母と一緒に暮らすため一軒家が良いと思っていました。

### 移住までの間

富士宮市の移住・定住ポータルサイトを見つけ、話を聞いてみたところ、猪之頭の区長さんにお会いすることができ、条件にあったいい物件を紹介して頂き、猪之頭地区に住むことに決めました。

### 移住してみて

自然豊かで景色も良く特にびっくりしたのは、星がとても綺麗だということです。横浜ではほとんど星は見れなかったですし、以前住んでいた山形県も星が綺麗な事で有名ですが、高原で見る冬の星空は山形でも見たことがないくらい綺麗でした。

また、都会では人間関係が希薄になってしまいがちですが、ここでは近隣の方々にもとても良くして頂きとても感謝しています。移住者に対して閉鎖的などがまったくなくウェルカムな雰囲気があるのは本当に有り難いことです。



岡村さん  
令和2年4月神奈川県鎌倉市から移住

### 移住のきっかけ

「アウトドアを楽しめる施設」をつくるアイデアを実現するための移住先と、子ども達を都会の窮屈な環境ではなく、水と空気が綺麗で安全に育てられる場所を探していました。

### 移住までの間

移住相談センターの方や、市役所の担当の方、区長さんや大家さんなど支援者の方たちがいたことが決定的でした。自分たちが見てきた事以上に実情を聞ける人の存在はとても大きいと思います。

### 移住してみて

周辺の環境やコミュニティについても、初めは受け入れてもらえない怖さがあると思います。でも実際来てみるとオープンな方ばかりで、地域のコミュニティへの入りにくさは全くありませんでしたし、この地域には他にも移住者の方がいらっしゃるのでも、情報交換もできます。また、子供を持つ親御さんでも心配する必要はないと思います。小学校や保育園は人数が少ないので先生たちの目が届きやすく、子どもたちもすぐにとけこんでくれました。

## 3-2 地区特性にあったビジョン策定(京都市大原小出石町地区)

### ●実施主体

小出石町ビジョン策定委員会  
小出石町地区計画検討委員会

【地域づくりのテーマ】



### ●取り組みの背景

本地区は、京都市の山間部に位置し、急速な過疎化や高齢化により、地域活力の低下や後継者不足、地域コミュニティの維持が困難になってきていることから、地区外から居住者を受け入れ、活性化を図る必要が生じました。

### ●検討プロセス

長期的な集落の将来像を模索するため「小出石町ビジョン策定委員会」を設立しました。その後、ビジョンの実現を目指すため「地区計画検討委員会」を設立し、地区計画を検討しました。

## 大原小出石町地区・地区計画の概要

住民が主体となった検討委員会は、住民が主体となり、専門家等の支援を受けながら検討を進めてきました。また、アンケートの実施やまちづくりニュースの発行、4度の意見交換の開催等を通じ、住民の意向を把握し、合意形成を進めました。

### 専門家等の支援事項

- ・委員会等の設立や運営
- ・住民意向把握の実施
- ・地区計画素案や都市計画決定等

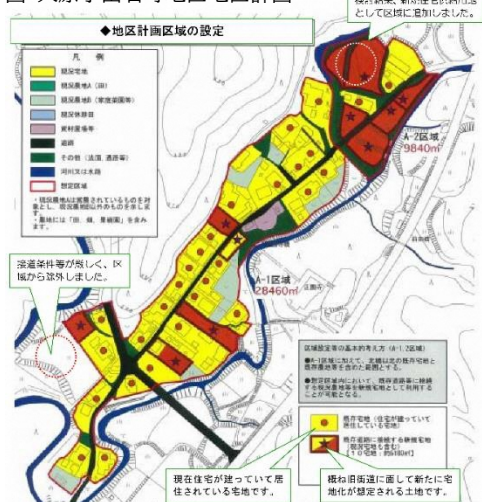
### 地区計画の概要

小出石町の周辺環境に配慮し、住民が愛着を持っている集落の景観を守り続けていくために必要な事項が盛り込まれています。

### 期待される効果

本地区は市街化調整区域に位置することから、原則として、新たな住宅等の立地は難しい状況にありましたが、地区計画に位置付けられた新たに宅地化が想定される区域では、住宅等の立地が可能となりました。

図：大原小出石町地区地区計画



委員会の様子



### 3-3 低未利用地を活用した多目的広場整備(日野市杉の子ひろば)

#### ●実施主体

武蔵野台自治会防災会

【地域づくりのテーマ】



#### ●取り組みの背景

日野市では、空き家の活用へ関心がある所有者等に対し、活用希望者を紹介し、両者の仲介を進める「空き家活用マッチング」を行っており、自治会やNPO法人等による利活用が進められています。

#### ●検討プロセス

地元自治会や所有者との相談を経て建物を解体し、その跡地を地域住民自らが整え、広場を整備しました。現在は、炊き出し訓練、子ども遊ぼう会、花壇の維持、畑いもほり会などに活用しています。



広場の整備

建物の解体跡地を地域住民自らが整え、広場として整備されました。



子ども遊ぼう会

子どもが地域内で遊べる機会をつくり、地域との交流の機会としています。



炊き出し訓練とカフェ

(写真左)以前より自治会防災会で行っていた炊き出し訓練の様子。地域には公園がなかったため、杉の子ひろば完成後は、毎年ここで訓練を実施しています。

(写真右)住民の交流を進めるため、隣の空き家の玄関前(屋外)を借りて、炊き出し訓練時に「ほどくぼカフェ」を同時実施した。ひろばと隣の空き家でのカフェが一体となり、杉の子通りが賑わいました。

### 3-4 地域主体でよろずや商店を開業(宮城県丸森町大張地区)

#### ●実施主体

大張物産センターなんでもや(任意団体)

【地域づくりのテーマ】



#### ●取り組みの背景

JA購買部の撤退と大張地区の唯一の小売店の廃業が続き、地域住民が買物不便に直面しました。

#### ●検討プロセス

商工会有志と地区住民が商店開業を計画し、地域住民等から出資(1世帯あたり 2,000円の協力金、200世帯から合計40万円)を集めました。撤退したJA購買部の空き店舗を賃借、改修して、なんでも取り扱うよろずや商店「なんでもや」を開業しました。

#### 「大張物産センターなんでもや」の概要

##### 住民が主体となった活動

新店舗開設に向けて、沖縄県国頭村の共同店事業をモデルとして検討を進め、地区住民の大方の賛同を得ることができました。

なんでもやは、小学校、公民館(現・大張まちづくりセンター)、郵便局が立地するエリアにあり、地域おこしの活動拠点を兼ねた小売店を開業させる方針が決定しました。

なお、この他にも、次のような活動に取り組んでいます。

##### 主な活動内容

- ・店舗内に交流スペース設置
- ・移動販売や買い物支援
- ・高齢者の見守り活動
- ・弁当・総菜の製造・販売
- ・イベント開催(大創業祭、季節の大売り出し等)

##### 期待される効果

移動販売は、住民ニーズの高まりを受け、月曜日から金曜日としています。生鮮・日配品、弁当・惣菜を主体とし、高齢者のいる約200世帯を対象に、見守りを兼ね1日25~30戸を巡回しています。一年間に1~2回は体調を崩した高齢者を発見するなど、買い物支援と見守り活動の効果が上がっています。



## 4 相談窓口・支援制度

### ●相談窓口

富士宮市では、地域づくりのテーマとなる移住・定住、自治会活動、出張商店街、地区計画等の相談窓口を設けています。ご相談がありましたら、お気軽に、都市計画課又は各担当課・室へお問い合わせください。

### ●支援制度

富士宮市では、各種の支援(補助)や情報提供等を行っています。

表 相談窓口一覧

分野	事業の概要	相談窓口(担当課・室)
移住・定住	富士宮市への移住定住の支援を進めている	企画戦略課地域政策推進室 電話：0544-22-1215
自治会活動	地域の皆さんが安全で安心して暮らせる住みよい地域づくりのために、自治会に対して、様々な支援を行っている	市民生活課市民安全係 電話：0544-22-1130
自主防災組織	自主防災組織への補助などを行っている	危機管理局危機管理担当 電話：0544-22-1319
地域の見守り	市民を見守る目を増やす事業を展開している	福祉企画課地域包括ケア推進係 電話：0544-22-1591
出張商店街	まちなかと北部・芝川地域との「地域間交流」と、寄り合い処への誘導や地域の顔の見える関係を作ることによって「地域コミュニティの維持」を図っている	企画戦略課地域政策推進室 電話：0544-22-1215
公共交通	宮バス、宮タクなどの公共交通事業を推進している	市民生活課交通対策室 電話：0544-22-1152
空き家対策	空家等対策の推進に関する特別措置法に基づき、富士宮市空家等対策計画を策定して空き家対策を推進している	建築住宅課住宅管理係 電話：0544-22-1163
地区計画	地域の活力を維持するため「市街化調整区域における地区計画」の活用により、地区特性をいかしたまちづくりを支援している	都市計画課計画係 電話：0544-22-1166

---

## 富士宮市 地域づくり読本

発行日 2023年3月

発行 富士宮市都市整備部 都市計画課 計画係  
〒418-8601 静岡県富士宮市弓沢町150番地  
電話番号：0544-22-1166

企画編集 株式会社都市環境研究所

---